西日本初・九州初

前立腺がん治療の新たな選択肢

TULSA（タルサ）

MRIガイド経尿道的前立腺超音波アブレーション治療

切開しないから回復が早い

後遺症・合併症が少ない

入院・治療 3泊4日

古賀病院 21 泌尿器科

納得してタルサ治療を選択していただくために

タルサ治療Q&A

詳細は
ホームページに
掲載しています

タルサ治療の内容について

Q. 全摘したほうが再発リスクが減るのでは？

A タルサ治療では、治療後、麻酔終了前に、即時に適切に治療出来たかどうかをMRIで確認できるため、再発のリスクが低減します。また、限局性前立腺がん低・中リスクの手術、放射線（重粒子線）と同等のがん抑制効果があります。

Q. 治療に伴う痛みはありますか？

A 治療は、全身麻酔のもとで行うため、痛みを感じることはありません。治療後、排尿時に軽い痛みがでる場合もありますが、徐々に落ち着きます。

Q. タルサ治療後の後遺症を教えてください

A 治療後は1か月程度、一時的に排尿障害が出る場合もあります。
しかし、尿失禁、勃起不全といった、前立腺がんの治療後によくある後遺症は最小限です。

Q. 日常生活にどれくらいで戻れますか？

A 治療当日に、夕食（食事）や歩行が、翌日にはシャワー浴ができます。
タルサ治療はメスを入れない・放射線被ばくがないため、体への負担が少なく、早期の社会復帰も可能です。医師と相談し、体調を見ながら、仕事や趣味など積極的にチャレンジしてください。

Q. 再発が心配です…

A タルサ治療のがん制御効果は、手術、放射線（重粒子線）治療と同等です。タルサ治療後、1年間は1か月に1度、2年目以降は、3〜6か月ごとに経過観察を行います。もし再発した場合は、再度、タルサ治療の追加や、手術、放射線・重粒子線治療も可能です。治療後は、通院、検査の指示を守り、自分らしい毎日をおすごしください。

タルサ治療の適応について

Q. タルサ治療はどんな人に適用されますか？

A ステージ2までの限局性前立腺がんの方が対象になります。また、放射線・重粒子線治療後の再発時も、タルサ治療が適応になる場合があります。一度、当院へご相談ください。

Q. タルサ治療ができない場合はありますか？

A 局所進行がんの方、転移がある方は、タルサ治療が行えません。またMRI不適合の体内金属・機器を有する方、重度の心肺機能低下で安全に全身麻酔ができない方、前立腺内部で、がん病巣と尿道の間に高度の石灰化が存在する方も治療が行えません。詳しくは当院へご相談ください。

治療のご相談について

Q. 治療費はいくらですか？

A タルサ治療は、自由診療で医療保険の対象外になります。治療費は、3泊4日の入院治療で税込約250万円です。症状や治療追加により、加算される場合があります。詳細は当院へお尋ねください。

Q. タルサ治療を受けたい場合はどうすればいいですか？

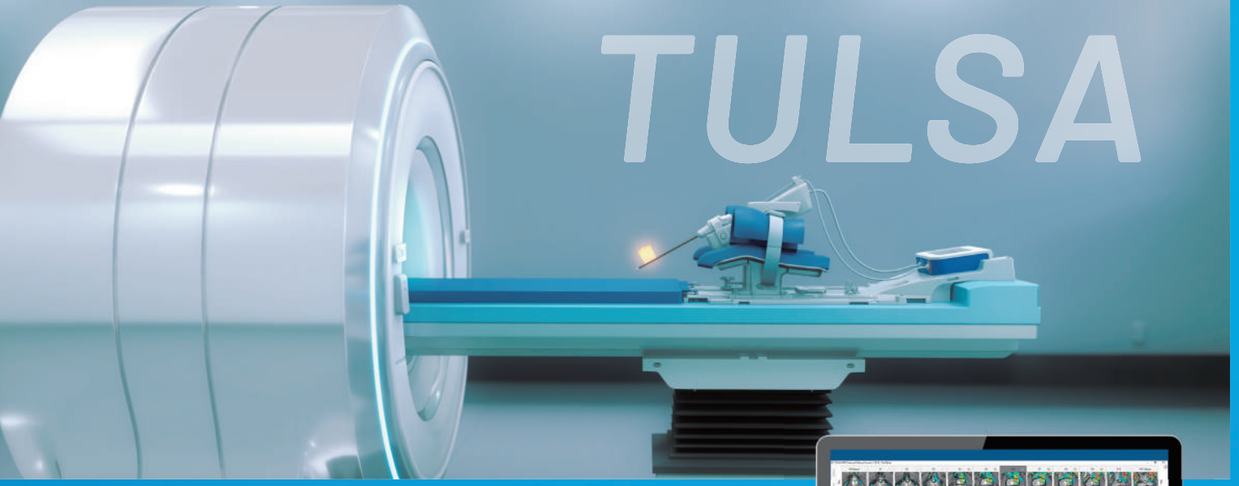
A タルサ治療ホームページのお問合せフォームに必要事項をご記入いただき、送信ください。ホームページは右上のQRコードより閲覧可能です。もしくは、下記の電話番号（地域医療連携室）へご連絡ください。

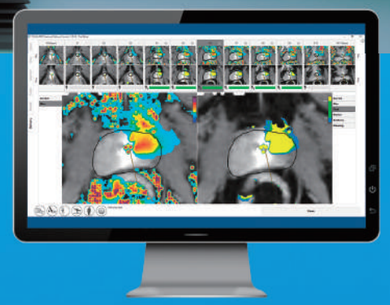
社会医療法人 天神会
KOGA
福岡県久留米市宮ノ陣3-3-8

地域医療連携室（直通）
0942-38-2709
受付時間 月曜〜金曜 9:00〜11:00、13:00〜16:00
土曜 9:00〜12:00（日・祝除く）

古賀病院21
古賀病院21タルサ 検索

2024.11





タルサ治療について

タルサ治療は、アメリカでFDA承認を受け、
ヨーロッパでCEマークを取得した安全性が確立された、
信頼のある前立腺がん低侵襲治療法です。
当院は、アジアおよび国内2番目のタルサ治療施設です。

タルサ治療の利点

- 1ミリ、1℃単位の精密なオーダーメイド治療
- 手術・放射線（重粒子線）と同等のがん制御効果
- 尿漏れ、EDなど治療の合併症・後遺症が圧倒的に少ない
- メスを入れず、放射線（重粒子線）被ばくがないため回復が早い
- 入院期間は3泊4日！ 退院後すぐに社会復帰可能

■タルサ治療の適応範囲

日本泌尿器科学会編 前立腺癌診療ガイドライン 2023年版、2023年. メディカルレビュー社. を参考に作成

■前立腺がんの治療の選択

	手術	放射線	重粒子線	タルサ
治療範囲	前立腺 すべてを摘出	前立腺 すべてに照射	前立腺 すべてに照射	がんの状態に あわせて焼灼
治療効果の確認	摘出した前立腺から病理検査を行い再発率などを予測	PSAを長期的に検査確認	PSAを長期的に検査確認	治療直後に 確認可能
治療（入院）期間	腹腔鏡手術で約1週間入院 開腹手術で約2週間入院	照射通院回数 35〜40回	照射通院回数 12回	治療を含めて 3泊4日の入院
社会復帰	週単位程度で可能	治療直後から可能	治療直後から可能	治療直後から可能
追加治療必要時の選択肢	・放射線 ・薬物療法	・タルサ治療 ・薬物療法	・タルサ治療 ・薬物療法	・タルサ再治療 ・全摘手術 ・放射線 ・重粒子線 ・薬物療法
合併症・後遺症	尿漏れ、尿失禁、勃起不全など	・治療中（排尿障害、頻尿など） ・晩期障害（血尿、血便など） ・勃起障害	・治療中（排尿障害、頻尿など） ・晩期障害（血尿、血便など） ・勃起障害	治療直後、一次的な排尿障害がでるケースもある

担当医よりメッセージ

前立腺がんの患者数は年々増加し、男性の9人に1人がかかる病気となりました。
手術、放射線療法、ホルモン療法と有効な治療はいろいろとありますが、残念ながら、いずれの治療も、その合併症のために、これまでの生活が妨げられることが多くあります。
今回、当院で開始しましたタルサ療法（TULSA）は、治療効果は変わらず、前立腺がん治療後によくある尿失禁、勃起不全、骨粗しょう症などの合併症は最小限とすることのできる新しい治療です。
前立腺がんになった場合、まず最初に検討すべき治療と思い、九州で初めて当院で導入いたしました。
前立腺がんと診断されたとき、一度検討されてはいかがでしょうか。

古賀病院21 副院長
ほうじょう　もりふみ
北城 守文
医学博士
●日本泌尿器科学会専門医・指導医
●日本泌尿器科内視鏡学会
泌尿器ロボット支援手術プロテクター認定医
●日本泌尿器科内視鏡学会泌尿器腹腔鏡技術認定医
●優秀専門臨床医™認定

タルサができる4つのメリット

1 1㎜単位・1℃単位で行う高精度の治療→ 再発リスク低減

MRIで、1㎜単位で治療範囲を設定し、治療中はMRIにより、5〜7秒毎に前立腺内および周囲の温度を測定。病巣だけを焼灼し壊死させます。治療直後、麻酔終了前に、MRIで、適切に治療ができているかを即時に確認するため、再発リスクが低減します。

2 がんの状態や希望にそったオーダーメイド治療→ 治療前と変わらない生活

治療前に、患者さんのがんの状態や、機能温存に対する希望を話し合い、医師が、お一人おひとりにあった綿密な治療計画をたてます。治療当日も、MRIでがんの状態を確認し、患者さんの温存したい機能を鑑みて、焼灼をスタートする完全オーダーメイド治療です。そのため、治療後もライフスタイルを変えることなく、自分らしくすごせます。

3 尿もれなど前立腺がん治療の後遺症を低減→ 仕事や趣味も積極的に

タルサ治療では、MRIで正確に病巣を確認し、がんを焼灼して壊死させます。同時に、前立腺に隣接する勃起神経や尿道括約筋、直腸といった周辺神経や臓器は保護・冷却してダメージを減らし、後遺症を低減。タルサ治療後は、後遺症の悩みもなく、仕事や趣味も積極的に楽しめます。

4 入院は3泊4日！回復も早く通院も少ない→ 治療と仕事の両立も可能

タルサ治療の前日に入院し、治療後2日で退院です。メスを入れないため体へのダメージも少なく、放射線、重粒子線の被ばくもなく、通院回数も1/2以下。治療後の回復も早く、早期の社会復帰や、治療と仕事の両立も可能です。

MRIガイド経尿道的前立腺超音波アブレーション治療で使用する装置は、古賀病院21が個人輸入したもので治療は自由診療となります。

治療による有害事象 米国、カナダ、ヨーロッパにおける臨床試験において、115例中7%に有害事象が発生しましたが、全例が軽快したと報告されています。具体的には、尿路感染症、尿路外尿貯留、腸閉塞、深部静脈血栓症です。

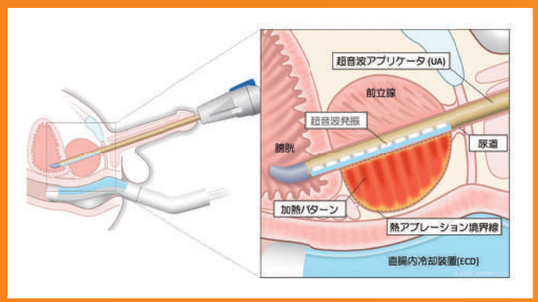
MRIと超音波による
新しい前立腺がん低侵襲治療

**メスを入れない、被ばくしない、合併症・後遺症も少ないタルサ治療。
3泊4日の入院治療で通院回数も少なく、
治療後もこれまでと変わらない生活を送ることが可能です。**

タルサ治療の概要

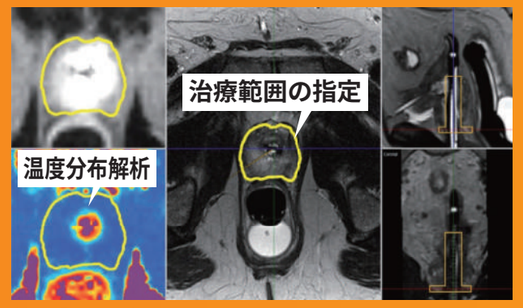
1 全身麻酔後に治療器具を挿入

全身麻酔後に、尿道から超音波治療装置を挿入。肛門より、冷却装置を挿入します。超音波でがんを焼灼し、焼灼が不要な直腸や勃起神経、尿道括約筋、膀胱を保護・冷却して後遺症のリスクを回避します。手術と異なり、メスを入れないため、体への負担も非常に少ない治療です。



2 MRIで撮影して治療範囲を決定

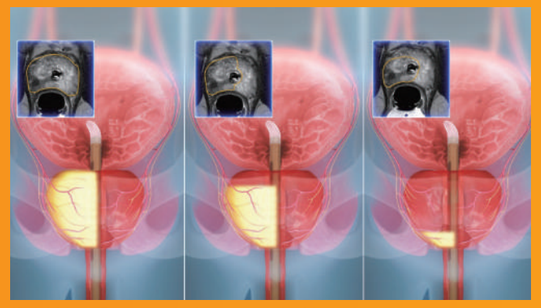
MRIで、がんの位置や状態を最終確認。患者さんの希望に合わせた機能温存を鑑みて、改めて治療範囲を決定します。



治療計画画像

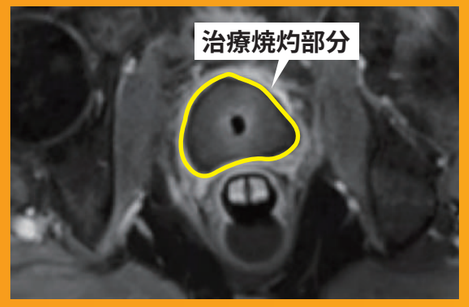
3 加熱治療スタート（アブレーション）

指定した範囲を、高エネルギー超音波で焼灼。MRIにより内部温度が常に測定され、がんが壊死する温度（55℃以上）になるよう、超音波が自動調整されます。同時に、前立腺に隣接する勃起神経、直腸、尿道括約筋などは傷つけないよう焼灼範囲をコントロールします。


術前治療計画にあわせて焼灼治療を実施

4 治療結果の確認

タルサ治療後、麻酔終了前に、MRI撮影を行い、加熱壊死した範囲を確認します。治療結果を即時に確認できるため、再発リスクが低減します。



治療が適切に行われたことを画像で確認

タルサ治療の流れ

術前検査
通院1〜2日

前立腺がんの診察とともに
術前検査を行います。
術後の生活や機能温存に対する
ご希望を伺い、医師が最適な治療法を
提案します。

タルサ治療
入院治療3泊4日

タルサ治療の前日に入院。
全身麻酔のもとタルサ治療を行います。
治療時間は麻酔を含めて約3時間程度。
治療当日に夕食も可能で、
歩行もできます。

退院後
早期に社会復帰可能

タルサ治療は、尿漏れや下痢などの
後遺症が少ないため、
早期の社会復帰が可能です。
体調を見ながら、
旅行や趣味も楽しみましょう。

経過観察
1年間は1か月に1回通院

治療から1年間は1か月に1回、
2年目以降は、3か月ごとに通院にて
経過観察を行います。
体調の変化や心配なことなど、
医師にご相談ください。

2024.11